

算, コックピット計器表示, アニメーション表示, 記録, 位置・姿勢解析, 視界映像発生計算等を行うためのコンピュータ群で構成されている。その他, リグ装置用として 1 台のコンピュータがある。視界表示は, コックピット窓外視界用として 3 画面, 模擬機体/操縦リグ装置室で舵面の動きを見ながら操縦するための視界モニター用に 1 画面あり, いずれもスクリーンにプロジェクターから投影する方式である。リグ装置としてエレベータ, エルロン, ラダーの主要 3 舵が大型旅客機を 1/10 で模擬した機体構造に稼動状態で取り付けられており, 電動アクチュエータによって作動させることができる。このリグ装置はコンピュータシステムと接続され, 舵面アクチュエータを模擬したフィジカルシミュレーションを可能としている。

テクニカルツアーは, それぞれ約 30 名の見学者グループを構成して, 見学者が一人ずつ順番に, フライトシミュレータを体験する形式をとり, 合計約 50 名の見学者が体験した。フライトシミュレータの体験ツアーをご許可いただき, ご多忙中のなかご協力いただいた片柳亮二教授をはじめとして, 見学者への説明のみならず, 片柳研究室への誘導もいただいた大学院生・学部生の皆さんに感謝いたします。

■懇親会イベント担当より

吉澤達也

(金沢工業大学)

第 15 回日本バーチャルリアリティ学会大会の懇親会は 2010 年 9 月 16 日 (木) 19:00 より, 約 2 時間, 金沢エクセルホテル東急のボールルーム (5F) にて開催された。

廣瀬学会長の挨拶に引き続き, 古都金沢の文化を堪能していただくために, 伝統芸能の一つである「一調一管」という出し物が行われた。笛と鼓の力強いシャープな音が会場に鳴り響き, 参加者は金沢特有の伝統文化を味わった。約 15 分の演奏の後, 河原大会委員長の挨拶と石川金沢工業大学学長の乾杯で会食が始まった。懇親会には今回特別講演をお願いした川崎和男大阪大学大学院教授と浅田稔大阪大学大学院教授をお招きした。宴も酣となったところで, 2010 年度の論文賞の表彰式が行われ, 受賞者には廣瀬学会長より表彰状が, 岩田選考委員長よりメダルが授与された。最後に, 松原次期大会委員長より閉会の挨拶と次期大会についての告知があった。

日本海側の都市で開催された初めての大会の懇親会と



懇親会の様子 *口絵にカラー版掲載

しては当初の予想を上回る約 160 名 (来賓, 招待者を含め) の方に参加していただき, 大盛況であった。参加者には懇親会をご堪能していただいたものと期待する。

■会場担当より

川崎順治

(金沢工業大学)

郭先生と一緒に会場とアルバイトを担当した。今大会は, 8 号館の 1F で企業展示, 2F で技術・芸術展示, 一般発表会場は 3F と 4F の 4 部屋で同時開催で行った。同一の建物で開催ができ参加者も便利であり, 多くの参加者で賑わった。会場のセキュリティは, 午後 7 時に建物全体がロックされ安全が保たれた。

特別講演は, 8 号館の多目的ホールで 400 人が入れる会場を作った。学会参加者と一般の方も含め大人数の聴講者が入り成功を収めた。各種委員会は, 7 号館に会議室 4 室を確保し対応できた。

昼食ランチの食堂は, 8 号館に隣接する新築の 21 号館が大会直前にオープンし, 大会が初めての大人数使用となった。



セッション会場の様子